
令和6年度香川県学習状況調査報告書について

令和6年度香川県学習状況調査を令和6年10月、11月に実施しました。香川県教育センターでは、調査結果について成果や課題が明らかになるよう、児童生徒の学習や生活の諸側面等に関する状況を分析し、本報告書にまとめました。それぞれの市町や学校の実情に照らし合わせて、本報告書を適切に活用した教育実践がなされるよう、活用支援を行います。

1 調査の概要

(1) 調査の対象

県内公立学校の小学校第5学年及び中学校第2学年の全ての児童生徒
〔学校数 小学校 151校、中学校 66校（附属学校及び県立学校を含む）〕

(2) 調査の時期

小学校：令和6年10月29日（火）～11月8日（金）

中学校：令和6年11月5日（火）～11月14日（木）

(3) 本年度の出題の主旨

「思考力・判断力・表現力等」の問題に重点を置いて出題し、「知識及び技能」を活用して課題を解決する力が育っているかどうかを測り、学習指導に係る検証改善サイクルの確立を図る。

2 調査の結果から

(1) 読み取った情報を基に考えたり、結び付けて考えたりすること

- 文章や資料から必要な情報を読み取ったことを基に、自分の考えをもったり、表現したりする問題の正答率が低く、無解答率が高い。
- 複数の情報を結び付けて考える問題の正答率が低く、無解答率が高い。

(2) 児童生徒主体の学びの実現に向けた授業改善

- 自分で考え、自分から取り組んでいると回答した児童生徒は70%を下回っている。

(3) 自己有用感に関すること

- 自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

(4) 家庭での勉強時間と一人一台端末の持ち帰り利用

- 授業以外で、普段、1時間以上勉強している児童生徒の割合が減少している。
- 端末を、毎日、もしくは時々、家庭で利用できるようにしていると回答した学校の割合が増加している。

3 市町教育委員会や学校への支援

- 市町教育委員会や学校からの要請に応じて、指導主事を派遣し、調査結果に基づいた教育活動が行われるよう支援する。
- 電話等で調査結果の分析や活用を支援する。